

地震対策

地震災害とは？

地震による災害は、津波をはじめ、建物倒壊、火災の発生、土砂崩れ、液状化現象などがあります。建物の倒壊や土砂崩れなどによって道路が通れなくなる交通障害や、線路の安全確認により電車が動かなくなる場合もあります。また停電や都市ガスの停止、水道の断水が起こる場合もあり、電話やインターネットもつながりにくくなります。

地震の時の行動は？

地震の揺れを感じた場合や緊急地震速報を見聞きした場合は、あわてずにはまず身の安全を確認してください。そして落ち着いてテレビやラジオ、携帯電話やスマートフォンなどで正確な情報の把握に努めましょう。

地震発生

1~2分

3分

5分

10分
数時間
3日

最初の大きな揺れは約1分間

- 身の安全を確認する

揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦の落下・ブロック塀の倒壊・自動販売機などの転倒に注意



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう

- 要配慮者の安全確保
- 隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないかの確認
- ケガ人はいないかの確認

出火防止 初期消火

- 消火器を使う
- 余震に注意
- 漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーをおろす・ガスの元栓を閉める



ラジオなどで正しい情報を

- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないようにする
- 避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう
- 災害・被害情報の収集
- 壊れた家に入らない
- 近くの人の救出・救護



屋内にいた場合

家の中

- 頭を保護しながら丈夫な机の下などに隠れる
- 火の確認はすみやかにする(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)
- 乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確認する
- 裸足で歩き回らないようにする(ガラスの破片などでケガをする)
- 大規模店舗や集客施設にいるとき
- 吊り下がっている照明などの下から避難する
- あわてて出口や階段に殺到しない
- エレベーターに乗っているとき
- 最寄りの階で停止させて、すぐに降りる

屋外にいた場合

路上

- ブロック塀や自動販売機には近づかず、ビルの壁、看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意する。頭をカバンなどで保護する

車を運転中

- あわてて急ハンドルや急ブレーキをかけず徐々に速度を落とす
- 避難するときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出す

山やがけ付近にいるとき

- 落石やがけ崩れに注意し、できるだけその場から離れる

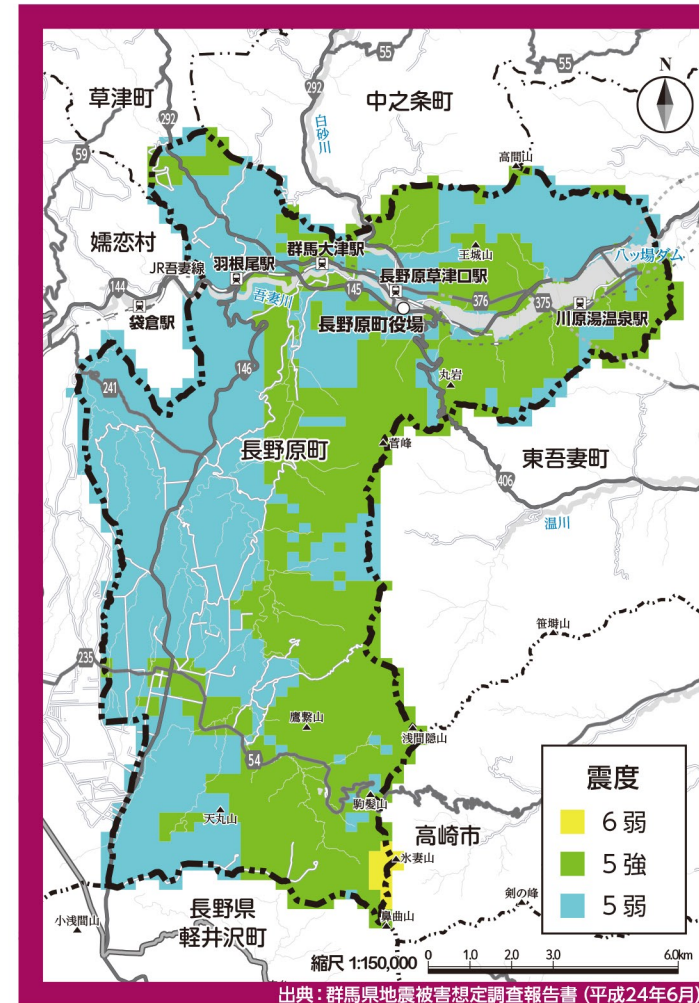


揺れやすさマップ

群馬県は地震防災対策として、現時点で最新の予測手法で被害予想調査を行っていますが、**実際の震災では常に想定を超える可能性がある**という意識を持ち、日ごろから大震災への備えをしておきましょう。

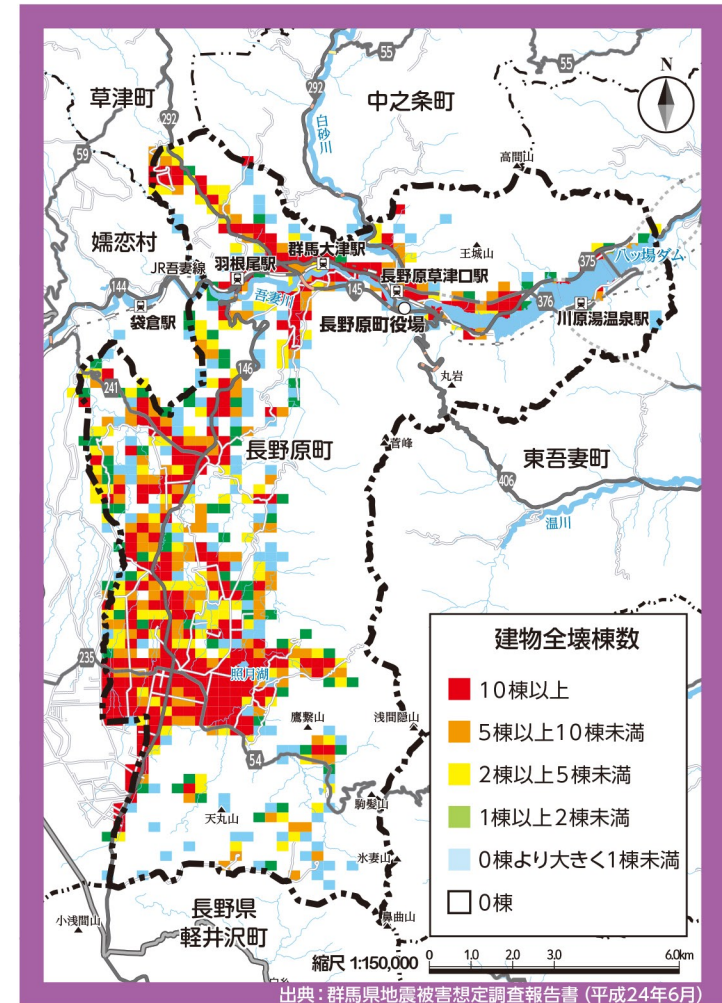
地震分布図

この地図は、群馬県が行った地震被害想定調査において、長野原町の被害が最も大きくなる関東平野北西縁断層帯地震が発生した場合の震度分布を250mメッシュで表示したものです。



建物全壊棟数図

この地図は、群馬県が地表震度分布図の震度分布をもとに、構造別・建築年次別の建物データから倒壊被害の危険度を予測し250mメッシュで表示したものです。昭和56年5月31日以前の建物の割合が多い区域は、危険度が高く表示されます。

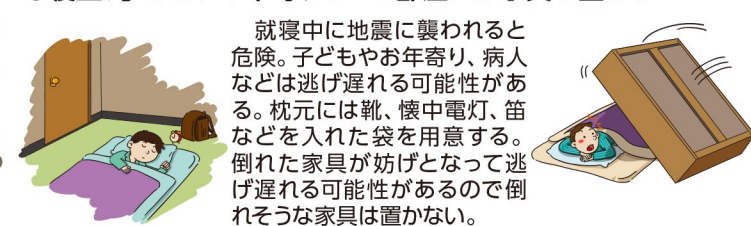


わが家の安全対策

- 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる 出入口や通路にものを置かない



- 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない



家の中の転倒落下を防ぐポイント

ダンス・本棚

L字金具や支柱などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。

食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。

テレビ

できるだけ低い位置に固定しておく。家具の上はさける。

冷蔵庫

ベルトなどで背面と壁を固定する。背面上部のベルト取付部分と壁をベルトで連結すると効果が高くなる。